



2014年 (平成26年) 3月3日 月曜日

日曜 休刊

# 鉄のふしぎ? 博物館

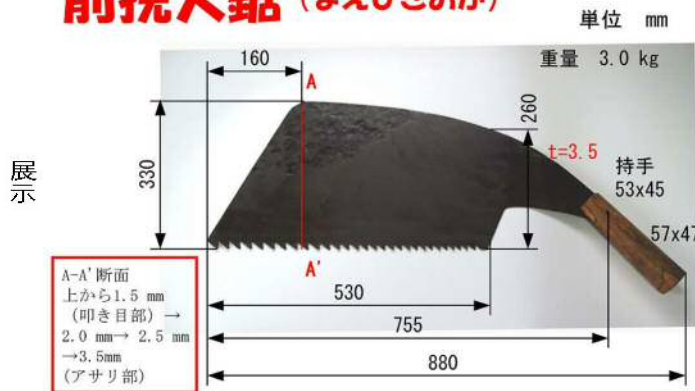
■19

二階にある『鉄のふしぎ博物館』へ昇る階段の踊り場に大きな鋸が丸太を縦に挽くような形で展示されています。大きなのこぎりでですね。来館者。「来館された岡崎様から頂いたものです」私。全長90cm幅30cmあまりの大きな大鋸(おが)には刻印も見えます。「いかり屋」かな? 存在感を主張しています。

2010年に火繩銃の研究家、峯田元治様(上尾市在住)と共に見学にいられた岡崎清様(京都

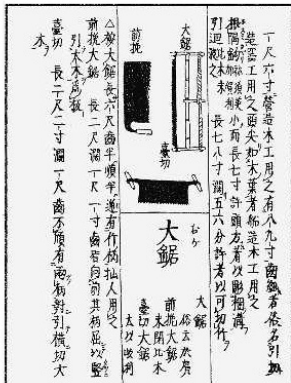
## 「大鋸(おが)1」

### 前挽大鋸 (まえびきおが)



展示

和漢三才図会

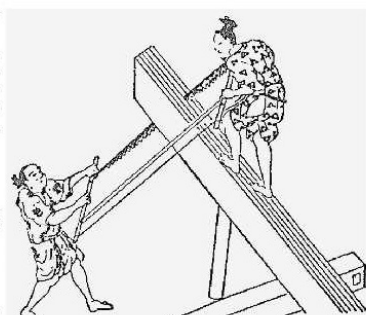


一尺五寸長さ大工用之有八寸齒者依多引鋸  
 鋸工用之鋸大木者有八寸齒者依多引鋸  
 引鋸鋸柄長七寸許引鋸者以引鋸柄  
 引鋸鋸柄長七寸許引鋸者以引鋸柄  
 引鋸鋸柄長七寸許引鋸者以引鋸柄  
 引鋸鋸柄長七寸許引鋸者以引鋸柄

市在住)は村田銃の研究家です。「大鋸を展示したいと思っっているのですが、なかなか入手できないのです」と私が話したことを覚えていただいていた岡崎様から、丁寧な見学お礼と共に大鋸を送った。素材はイギリスからの輸入品『東郷ハガネ』である。③台切大鋸。私が『おが』と教え、正確には②の前挽大鋸(まえびきおが)だった。明治時代後半、用途を指す。中央から逆手に並んでいて竹の柄をつけて、縄で鋸の歯の部分にピンと張るような工夫がされています。杣人(そまびと)木こりのこと)が使った書かれています。②前挽大鋸の説明には長さ2尺、幅1尺1寸、歯は皆前を向きその柄、屈って大木を堅(タテ)に挽いて板を作る。③台切大鋸(だいがきおが)、長さ2尺2寸、幅1尺、歯は不順(二等辺三角形の歯)、柄が2本あって大木を横に挽く。

## 衣川製鎖工業・衣川良介社長

画像はカラーと交換しています。



図の向して縦挽きする構造の鋸を大鋸(おが)と呼んでいる。大鋸は大方ガリの略で、ガガリは「カカル」すなわち「鉤」のようにひっかかる、という言葉から生まれた。既にこの構造を持つ鋸は、六世紀の永明寺古墳(ようめいじこふん) (埼玉県羽生市)出土鋸と八世紀の松井田愛宕山(群馬県安中市) 住居址出土鋸がある。こうした構造をもつ鋸が簡単に亡びるわけではないから文献や絵画には発見できないが、平安時代一鎌倉時代を通じて着々と進歩して来たと考えられる。(以下略)

大鋸は、古墳時代の古くから使われ、『図書鋸』の大鋸(おが)の項目には以下のように説明されています。

▽参考図書  
 和漢三才図会(東京美術 1979年)  
 鋸(吉川金次 法政大学出版局 2001年)